

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 13 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520636

研究課題名(和文) 実践日本語ポライトネス技術訓練方法の開発

研究課題名(英文) A Study Aimed at Developing a Practical Way to Teach Linguistic Politeness of Japanese

研究代表者

松村 瑞子 (Matsumura, Yoshiko)

九州大学・言語文化研究院・教授

研究者番号：80156463

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円、(間接経費) 630,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は日本語ポライトネス指導方法を開発し、国内外の大学での実用化を目指すことである。(1) 先ず既の開発した教材を内容面および各国の事情を考慮の上さらに充実させた。(2) 次に作成した教材を国内外の教師が効果的に使用することができるように日本の社会的特徴、日本語ポライトネスの特徴、および他の言語との相違をまとめた教師用手引書を作成した。(3) 最後に、作成した教材(日本語)を国内の国際コースおよび海外の教育機関で使用しやすくするために、教材および教師用手引書を英語、中国語、韓国語に全訳し、出版した。(4) また、ここでの研究成果を上海外国語大学、仁川大学、ロンドン大学にて発表した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this project is to develop an effective way to instruct Japanese politeness both within and outside Japan. First, we enriched the content of teaching materials so as to increase the understanding of Japanese learners of a wide variety of backgrounds. Next, we wrote out a teacher's manual which includes explanations for Japanese society and distinguishing characteristics of Japanese politeness so that Japanese teachers can use the teaching materials effectively. Finally, we made a complete translation of the teaching materials and the teacher's manual into English, Chinese and Korean. The textbook and the teacher's manual have been published and sent to some universities both within and outside Japan. Furthermore, we gave a presentation at a conference in University of London, University of Incheon, and Shanghai International Studies University.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：ポライトネス 配慮表現 わきまえ ポライトネス・ストラテジー 語用論技能

## 1. 研究開始当初の背景

ポライトネス研究として最も代表的とされる理論 Brown & Levinson (1987) は、フェイスという概念を応用して普遍的なポライトネス理論を打ち立てようとした。このポライトネス理論については、取り分けアジアの言語学者から批判されてきた。Ide (1989)、Matsumoto (1988/1989) は、ポライトネスには(1)「わきまえ」discernment (社会的慣習に従うことによるポライトネス)と(2)「働きかけ」volition (話者の意志によってかなり自由に選択できるポライトネス)があるが、Brown & Levinson は(1)のタイプのポライトネスを全く議論から外していると述べる。また、井出他(1986)は、アメリカ人は(2)のタイプのポライトネスが高い割合を占めているのに対し、日本人は(1)のタイプのポライトネスが高い割合を占めていることを示した。Ide、Matsumoto、井出他の議論には基本的に賛成するが、これらの議論がより説得力をもち批判に耐えうる理論になるには、自然談話にデータを分析することで、ポライトネスにおいて「わきまえ」と「働きかけ」が如何に機能しているかを示す必要がある。

そこで、松村・因は「日本語の談話におけるスタイル交替の実態とその効果についての分析」(平成10年度～平成12年度科学研究費基盤研究(C)(2))において、社会的地位、年齢、性別、会話主導責任の有無から上下関係があると考えられる3つのタイプの会話(タイプ1: 大学教授と学生および大学教授同志の会話、タイプ2: 医者と患者の会話、タイプ3: テレビのインタビュー番組の司会者とゲストの会話)を録音・文字化した資料の談話分析を行い、このような様々の上下関係が「わきまえ」や「働きかけ」にどのように反映しているかを分析した。その結果、日本語の談話においては、明瞭に文が終止されるとき、新しい話題に移行するとき、結論を表明するとき等、節目ごとに「わきまえ」の表明が必須であること、また使用されるポライトネス・ストラテジーの種類や頻度も会話参加者の上下関係や状況によって左右されているなど、日本語のポライトネスでは「わきまえ」が重要な役割を果たしていることを示した。

国立国語研究所においては、敬語研究から発展した日本語の丁寧さに関する調査研究が行われてきた。その調査研究に基づき、『言語行動における「配慮」の諸相』(2006)では、敬語形式選択の問題にとどまらず、それぞれの言語行動場面でどのような「配慮」をしているかにまで範囲を広げた研究が行われた。日本語のポライトネスにおいて「配慮」が重要なようであることは事実なのだが、この日本人の行う「配慮」や「心配り」は他の言語において必ずしも日本語におけるよ

うな効果をあげるわけではなく、誤解に繋がることもしばしばである(ザトラウスキー(1993))。

日本人にとっては丁寧に思える配慮表現が外国人には無礼に感じられることもあるということを考えれば、日本語のポライトネスを日本語学習者に合理的に提示するためには、学習者にとって理解が困難であると考えられる日本語のポライトネスを特定し、そこに焦点を絞って教材開発を行う必要がある。そこで、松村・因は「談話分析に基づく日本語ポライトネス指導教材開発」(平成20年度～平成22年度基盤研究(C)(2))において、韓国人および中国人・台湾人学習者に「日本人には丁寧に感じられるが、学習者には丁寧過ぎる、無礼、不自然と感じられる日本人の敬語行動を含む会話場面およびメール」を収集してもらい、その中で典型的と思える場面を抽出し、日本人および韓国人、中国人の10代～50代の男女にアンケート調査を行い、日本人と学習者の間の認識の違いを明らかにした。それを基に「日本語ポライトネス指導教材」を開発した。

## 2. 研究の目的

本研究は、これまで松村・因が行ってきた研究「日本語の談話におけるスタイル交替の実態とその効果についての分析」「談話分析に基づく日本語ポライトネス指導教材開発」を基に、日本語ポライトネス技能訓練方法を開発し、国内外の大学での実用化を目指すものである。

- (1) 既に開発した教材を、内容面および各国の事情を考慮の上、更に充実させる。
- (2) 作成した教材を国内外の教師が効果的に使用することができるよう、日本の社会文化的特徴、日本語のポライトネスの特徴および他の言語との相違等をまとめた教師用手引書を作る。
- (3) さらに、作成した教材を海外で使用するために、英語、中国語、韓国語に翻訳すると同時に、各国での日本語ポライトネス教育に資するよう教師用手引書を作成する。
- (4) ここで行った研究の成果を、国内外の学会で発表する。

## 3. 研究の方法

日本語ポライトネス技能訓練方法を開発し、国内外の大学での実用化を目指して、以下のような方法で、研究を進めていった。

## 平成 23 年度

### 教材の拡充および教師用手引書の作成

(1) 教材の拡充（平成 23 年 4 月～9 月）  
松村・因が開発してきたポライトネス指導教材を、国内外の日本語学習者および日本人に対して試用することで、修正加筆を行った。

(2) 教師用手引書の執筆（平成 23 年 10 月～平成 24 年 3 月）

教師用手引書には以下のような記述を行った。まず、これまで日本人・韓国人・中国人・台湾人に対して行ってきた調査結果、および本研究でベトナム、インドネシア、タイの留学生を対象として行った調査結果を基に、日本語ポライトネスに対する日本人と留学生の認識の違いについて記述し、日本人にとってのポライトネスとは何かについての説明を行った。

さらに、各課の素材についての解説を行った。それぞれの場面における発話のもつ語用論的含意、日本人の考え方、社会通念や背景的知識等を記述した。さらに、必要に応じて発展的学習活動を提案した。

試作した教材および手引書を用いて、九州大学および中国大連外国語大学、韓国仁川大学校で試験的に授業を行い、受講した学生に対して授業に関するアンケートを行い、学習者の認識・理解度調査を行った。

授業観察、およびアンケート結果に基づき、教材および教授用手引書に修正加筆を行った。

## 平成 24 年度

### 英語・中国語・韓国語版指導教材および教師用手引書の完成（平成 24 年度）

(3) 英語版指導教材・教師用手引きの完成：  
英語を媒体として様々な文化をもつ学習者に対する授業を行うために、既に日本語で作成されている教材および教師用手引書を英語に翻訳した。それを試用した授業を行い、英語版教材・英語版手引書を作成した。

(4) 韓国語版指導教材・教師用手引きの完成：  
韓国で授業を行うために、仁川大学校の黄美玉教授および梨花女子大学の本田美保講師に依頼して、日本語の教材および教師用手引書を韓国語に翻訳してもらった。翻訳に際しては、特に韓国人に日本語ポライトネスを指導する際の注意点を加えてもらい、韓国語版指導教材・教師用手引きを完成させた。

(5) 中国語版指導教材・教師用手引きの完成：  
中国および台湾で授業を行うために、中国人留学生（李曦曦）、中国大連外国語学院（姚艶玲准教授）、台湾国立科技大学（黄英哲准教授）に依頼して、日本語の教材および教師用手引書を中国語に翻訳してもらった。

翻訳に際しては、特に中国人、台湾人に日本語ポライトネスを指導する際の注意点を加えてもらい、中国語版指導教材・教師用手引きを完成させた。

## 平成 25 年度

(6) 日本語・英語・中国語・韓国語版『実践日本語ポライトネス指導教材』『実践日本語ポライトネス 解答・解説』の出版および関係機関への提供：

完成した日本語・英語・中国語韓国語教材および指導用解説を国内の大学で試用し、修正の必要がある部分については修正を行った後、『実践日本語ポライトネス指導教材 日本語・英語・中国語・韓国語教材』（296 頁）、『実践日本語ポライトネス指導教材 日本語・英語・中国語・韓国語 解答・指導用解説』（302 頁；CD-ROM 付）として出版し、国内外の関係機関に送付した。

(7) 雑誌・学会における研究成果発表：

本プロジェクトで行った研究は、平成 22 年度～25 年度に亘って、国内外の学会で発表すると同時に論文として出版した。（以下の主な発表論文等を参照のこと。）

## 4. 研究成果

本研究では、以下の研究成果をあげた。

(1) 拡充した日本語ポライトネス指導教材（日本語版）の完成：

ポライトネス指導教材を中国・韓国・インドネシア・ベトナム他からの留学生に試用して調査を行い、修正加筆の上、内容を充実させた。

(2) 教師用手引き（日本語版）の完成：

上記教材を用いて、日本語ポライトネス指導を国内外の大学で効率的に行うことができるように、上記教材のタスクの解答、解説書および指導方法（日本語版）を完成させた。

(3) 英語版指導教材・教師用手引きの完成：

英語を媒体として、様々な文化をもつ学習者に対する授業を行うために、英語版教材・英語版手引書を完成させた。

この英語版教材・手引書の完成により、英語を媒体とした日本語ポライトネス指導をより広範囲の学習者に行うことができるようになることを期待できる。

(4) 韓国語版指導教材・教師用手引きの完成：

韓国で授業を行うために、日本語の教材および教師用手引書を韓国語に翻訳した。翻訳に際しては、特に韓国人に日本語ポライトネスを指導する際の注意点を加え、韓国語版

指導教材・教師用手引きを完成させた。

今後は、韓国在住の日本語教師と協力して、この韓国語版教材・教師用手引きを用いて、日本語ポライトネス指導をより効果的に行うための方策を立てていく。

**(5) 中国語版指導教材・教師用手引きの完成：**

中国および台湾で授業を行うために、日本語の教材および教師用手引書を中国語に翻訳した。翻訳に際しては、特に中国人、台湾人に日本語ポライトネスを指導する際の注意点を加え、中国語版指導教材・教師用手引きを完成させた。

今後は、中国・台湾在住の日本語教師と協力して、この中国語版教材・教師用手引きを用いて、日本語ポライトネス指導をより効果的に行うための方策を立てていく。

**(6) 日本語・英語・中国語・韓国語版『実践日本語ポライトネス指導教材』『実践日本語ポライトネス 解答・解説』の出版および関係機関への提供：**

完成した教材および解説書を『実践日本語ポライトネス指導教材 日本語・英語・中国語・韓国語教材』(296頁)、『実践日本語ポライトネス指導教材 日本語・英語・中国語・韓国語 解答・指導用解説』(302頁；CD-ROM付)として出版し、国内外の関係機関に提供した。

今後は、本研究で作成した教材および教師用手引書を、韓国、中国および英語圏の国々のみならず、ベトナム、インドネシア、タイ、ミャンマー、マレーシア、スリランカ、サウジアラビア、ロシア等、多くの国々でも効率的に指導を行うことができるように、一部をベトナム語、インドネシア語、ロシア語、アラブ語等に翻訳し、より多様な教材・解説書を作成し、日本語ポライトネス理解に資する教材および解説書を作成していくことを計画している。

**(7) 雑誌・学会における研究成果発表：**

以下の～を始め、多くの学会および雑誌において、研究成果を発表した。(主な発表論文等を参照のこと。)

International Conference on Teaching and Learning (im)Politeness, July 9<sup>th</sup> 2013, University of London: Great Britain.

第13回東アジア日本語・日本文化フォーラム(韓国仁川大学校)

第14回東アジア日本語・日本文化フォーラム(中国上海外国語大学)

『日本語とジェンダー』日本語ジェンダー学会

『言語と文化の対話』(花書房)

『東アジア日本語・日本文化研究』第15

集・第17集

**5. 主な発表論文等**

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

**〔雑誌論文〕(計 11 件)**

松村瑞子、東アジア日本語・日本文化研究、東アジア日本語・日本文化研究会、査読有、第17集特別号、2014、89-104

WOLANSKI, Bartosz and MATSUMURA, Yoshiko、Address Terms in Japanese Blogs as a Response to the Author's Self-Presentation、言語文化論究、九州大学大学院言語文化研究院、査読有、No.32、2014、1-10

因京子、映画・ドラマ作品を通してみるジェンダーバイアス、日本語とジェンダー、日本語ジェンダー学会、査読有、第13号、2013、15-21

<http://www.gender.jp/journal.no.13/05china mi.html>

因京子、陳俊森、李吉鎔、マリーナ・カリュジノワ、佐藤紀子、アカデミック・ジャパニーズ教育の中核的意義 中国・韓国・ロシア・日本における実践から、専門日本語教育、専門日本語教育学会、査読有、第15号、2013、35-40

松村瑞子、日本人の謝罪行動 いつ謝罪が求められているか、東アジア日本語・日本文化研究 新機軸の日本語・日本語教育研究、東アジア日本語・日本文化研究会、査読有、第15集特別号、2013、91-104

顔曉冬、松村瑞子、中国における日本語教育の現状と分析 日本語終助詞「よ」「ね」「よね」の扱い方を中心に、言語文化論究、査読有、No.30、2013、17-29

松村瑞子、効率的な日本語ポライトネス指導法 勧誘・依頼および断りの方略を中心に、言語と文化の対話、花書院、2012、205-221

因京子、母語話者が知っていて学習者が知らないことは何か 学習者と母語話者のマンガ発話の解釈から、言語と文化の対話、花書院、2012、187-204

陳一吟、松村瑞子、日本語の引用句におけるジェンダー表現 大学生の自然談話を中心に、言語文化論究、査読有、No.28、2012、23-36

李曦曦、松村瑞子、談話標識としての「だから」に対応する中国語表現、言語科学、第47号、2012、53-60

因京子、現職者への専門的実務文作成支援 留学生教育の知見に基づく看護師支援の試み、日本語支援の構築 言語分析・コーパス・システム開発、凡人社、2012、91-104

**〔学会発表〕(計 9 件)**

村岡貴子、因京子、文章の比較・評価タスクによる日本語ライティング教材を用い

た実験授業とその評価、第 16 回専門日本語教育学会研究討論会、富山大学五福キャンパス、2014 年 3 月 1 日

MATSUMURA, Yoshiko and CHINAMI, Kyoko, Teaching Politeness by Focusing on Difference in Recognition between Japanese People and Learners, International Conference on Teaching and Learning (im) Politeness, SOAS, University of London: Great Britain, 2013 年 7 月 9 日

佐藤勢紀子、因京子、山路奈保子、山本富美子、二通信子、日本語による学術的文章作成の指導法、2013 年日本語教育と日本学国際シンポジウム・ワークショップ、同済大学：中国、2013 年 5 月 25 日

松村瑞子、発話行為におけるポライトネスの指導法 謝罪行為を中心に、第 14 回東アジア日本語・日本文化フォーラム、上海外国語大学：中国、2013 年 3 月 16 日

因京子、日本語の社会文化技能の教育方法、第 14 回東アジア日本語・日本文化フォーラム、上海外国語大学：中国、2013 年 3 月 16 日

因京子、工学分野の大学院留学生の日本語ニーズ インタビュー調査と試用教材への評価から、2012 年度日本語教育秋季大会、北海道大学、2012 年 10 月 14 日

因京子、アカデミック・ジャパニーズ教育の意義 日本語による研究の受信発信を通じて身に付く力は何か、世界日本語教育大会名古屋 2012、名古屋大学、2012 年 8 月 18 日

因京子、母語話者と非母語話者の発話解釈の差異：認識と推論、第 13 回東アジア日本語・日本文化フォーラム、仁川大学校：韓国、2012 年 2 月 10 日

因京子、書けない人の考えていないこと アカデミック・ライティングの必須条件、文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)「研究成果の日本語による受信発信の支援を目指したニーズ調査とリソース開発」講演、東北大学、2012 年 3 月 10 日

#### 〔図書〕(計 9 件)

松村瑞子、因京子、九州大学大学院言語文化研究院、実践日本語ポライトネス指導教材 日本語・英語・中国語・韓国語教材(教科書) 2014、296

松村瑞子、因京子、九州大学大学院言語文化研究院、実践日本語ポライトネス指導教材 日本語・英語・中国語・韓国語 解答・指導用解説 CD-ROM 付(解説書) 2014、302

松村瑞子、王丹丹(編) 九州大学大学院比較社会文化学府、平成 25 年度日本語資料集 CD-ROM 付、2014、432

因京子、力武由美、山路奈保子、松村瑞子、大倉美鶴、小川里見、森山ますみ、日本赤十字九州国際看護大学、看護コミュニケーションシリーズ 1 よりよい日常をつくる看

護、2014、128

因京子、力武由美、山路奈保子、松村瑞子、大倉美鶴、小川里見、森山ますみ、日本赤十字九州国際看護大学、看護コミュニケーションシリーズ 1 よりよい日常をつくる看護 タスク集、2014、127

松村瑞子、李曦曦(編)、九州大学大学院比較社会文化学府、平成 24 年度日本語資料集 CD-ROM 付、2013、434

因京子、山路奈保子、松村瑞子、日本赤十字九州国際看護大学、大衆文化で学ぶ看護コミュニケーション・タスク集

村岡貴子、因京子、仁科喜久子、大阪大学出版会、論文作成のための文章力向上プログラム、2013、175

松村瑞子、李曦曦(編)、九州大学大学院比較社会文化学府、平成 23 年度日本語資料集 CD-ROM 付、2012、555

〔産業財産権〕(特許権、実用新案権、意匠権)

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

松村 瑞子 (MATSUMURA, Yoshiko)  
九州大学・大学院言語文化研究院・教授  
研究者番号：80156463

### (2) 研究分担者

因 京子 (CHINAMI, Kyoko)  
日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・教授  
研究者番号：60217239